

英文校閲の実際 第12話

——英文における文章の主体の首尾一貫性の重視について①

【お断り】: ここで教材の文例の由来について説明しておきます。読者の皆さんは、「校閲前文例」に初歩的ミスが多いことから、これらを書いたSDの英語力のレベルが低いと感じておられると思います。しかしこれには理由があります。これらの文例は筆者が定年退職の8年後に拙著¹⁾を出版した際に、英文最終報告書を書く場合の英語話者による校閲の重要性について説明するために、英語話者による校閲済み原稿を後輩を通じて、会社の許可を得て提供を受けたものです。教材を選ぶ際には、米国人校閲者による修正箇所が多いものから選んだので、結果的に最も英語力が低いSDの報告書が選ばれることになりました。したがって、選ばれた教材は当該企業のSDの平均的な英語力のレベルを少しも反映していません。当該企業の名誉のために、以上の経緯をここに記すとともに、貴重な資料をご提供いただいたことに改めて感謝の意を表します。

文例26: Preliminary Two-Week Oral Toxicity Study of ABC-123 in Rats, (5/5)

Results, Electron microscopy より

(校閲前原文): ⑮ In electron microscopy, in females in the 100 mg/kg group, cytoplasmic lipid droplets were smaller than those in the control group, but no abnormalities were seen in cytoplasmic organelles such as mitochondrion or smooth-surfaced endoplasmic reticulum. ⑯ There were no abnormalities in adrenals in males in the 100 mg/kg group. ⑰ Besides, some changes as shown in the Table were seen, however those were not considered to be treatment-related, because those occurred sporadically and were not dose-dependent.

(和文): ⑮電子顕微鏡による検索では、100 mg/kg 群の雌の細胞質脂質顆粒が対照群のそれらより小さかったが、ミトコンドリアや滑面小胞体のような細胞内小器官に異常は認められなかった。⑯ 100 mg/kg 群の雄の副腎には異常は認められなかった。⑰その他、表に示すようないくつかの変化が認められたが、それらは散発的で、投与量に依存しないことから、投薬に関連した変化とは考えられなかった。

(校閲後): ⑮ On electron microscopy, in females in the 100 mg/kg group, the cytoplasmic lipid droplets were smaller than those in the control group, but no abnormalities were seen in the cytoplasmic organelles such as mitochondria or the smooth-surfaced endoplasmic reticulum. ⑯ There were no abnormalities in the adrenals in males in the 100 mg/kg group. ⑰ In addition some changes shown in the Table were seen, however they were not considered to be treatment-related, because they occurred sporadically and were not dose-dependent.

(解説) ⑮ “In electron microscopy” の “In” が “On” に修正されました。“On” に修正された理由は、“In”よりも方法を意味するニュアンスが強いからですが、Google USA のフレーズ検索では、“In electron microscopy” のヒット数が1,700,000件、“On electron microscopy” が782,000件と、“In” のほうが2倍以上もヒット数が多いことから、“In electron microscopy” も世間に通用している (=誤りではない) ことが分かります。

⑮と⑯の3箇所 “the” が追加されましたが、理由は組織学用語の前には通常 “the” が必要

だからです。ただし、ミトコンドリアは通常、複数形の“mitochondria”が使用されるためか、その前の“the”はよく省略されます。

⑰の“Besides,”はカジュアルな表現なので、“In addition”（加えて）に修正されました。なお、⑰の“as”は日本語の「～のような」に相当しますが、英語では不要です。また、2つの“those”（あれら）は距離感が不適切であり、“it”の複数形の“they”（それら）に修正されました。

文例 27 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Dogs (1 / 8)

Summary より

(校閲前原文) : ① ABC-123 was administered by oral gavage to 2 male and 2 female beagle dogs using an escalating dosage schedule and its acute toxicity was assessed. ② Dosage levels were set at 3, 10, 100 and 1000 mg/kg. ③ Each dose was given to each animal once in an ascending fashion with 3 or 4 days between doses, and were observed until 14 days after the final dosing.

(和文) : ABC-123 を漸増投与スケジュールにより、雌雄各2頭のビーグル犬に強制経口投与し、その急性毒性を評価した。②投与量は、3, 10, 100 及び 1000 mg/kg に設定した。③各投与量は、3-4 日の投与間隔を空けた漸増投与スケジュールにより投与され、最終投与の14日後まで観察された。

(校閲後) : ① ABC-123 was administered by oral gavage to 2 male and 2 female beagle dogs using an escalating dosage schedule and its acute toxicity was assessed. ② Dosage levels were set at 3, 10, 100 and 1000 mg/kg. ③ Each dose was given to each animal once in an ascending fashion with 3 or 4 days between doses, and the animals were observed until 14 days after the final dose.

(解説) 文例 27~34 は、1つの毒性試験の最終報告書の Summary を8つに分割しています。この試験は急性毒性試験の予備試験であり、雌雄各2頭のイヌを用い、3、10、100 及び 1000 mg/kg の薬物を、3-4 日の投与間隔を空けて、同じ動物に経口投与しています。

原文①と②は問題なし。③はカンマでつながれた複文ですが、原文では後の文の主語が省略されています。しかし、後の主語が省略できるのは、前後の文の主語が同一の場合だけであり、③の場合は前後の主語が異なるため、校閲者は後の文の主語 “the animals” を追加しました。

③の原文の最後の“dosing”が“dose”に修正されました。理由は、修正後の文章③に、“Each dose” や “between doses” と、“dose”が使われており、これらとの首尾一貫性の維持のためです。

文例 28 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Dogs (2 / 8)

Summary より

(校閲前原文) : ④ No animals died during the experimental period. ⑤ After the dosing of 100 and 1000 mg/kg, all animals showed severe vomiting within 1 hour after the dosing, and salivation was accompanied in 1 female after the dosing of 1000 mg/kg. ⑥ In addition, 1 or both males showed diarrhea within 6 hours after the dosing of 100 and 1000 mg/kg, and several animals showed compound-colored stool after the dosing of 100 mg/kg

or more.

(和文) : ④試験期間中の死亡動物はなかった。⑤100 及び 1000 mg/kg の投与後の全ての動物に投与後 1 時間以内に重度の嘔吐と、1000 mg/kg 群の雌 1 例に垂涎がみられた。⑥また、100 及び 1000 mg/kg 群の雄の 1 頭あるいは両方に投与後 6 時間以内に下痢がみられ、100 mg/kg 以上の数例の動物に、化合物の色が付いた大便が見られた。

(校閲後) : ④ No animals died during the experimental period. ⑤ After dosing 100 and 1000 mg/kg, all animals showed severe vomiting within 1 hour after dosing, and salivation was seen in 1 female after dosing 1000 mg/kg. ⑥ In addition, 1 or both males had diarrhea within 6 hours after dosing 100 and 1000 mg/kg, ⑦ and several animals showed compound-colored stools after receiving 100 mg/kg and above.

(解説) ④は問題なし。⑤の原文 “After the dosing of” から “the” と “of” が削除されました。複数の投与量で複数の個体に見られる現象のため、特定されていないので “the” は不要です。ただし、原文も世間に通用することは、Google USA による以下のフレーズ検索で分かります :

A. (原文) “After the dosing of” のヒット数 : 291,000 件

B. (校閲後) “After dosing” のヒット数 : 4,260,000 件

すなわち、A の原文も 29 万件以上ヒットするので、世間に通用すると言えます。

⑤の “salivation was accompanied in 1 female” は、垂涎を主語にしていますが、“accompany” が他動詞のため、「垂涎が何かに伴っていた」の意味になり、「垂涎が見られた」の意味になりません。校閲者は “salivation was seen in 1 female” (雌 1 例に垂涎が見られた) と、素直な表現に修正しました。日本人は、このような素直な表現を見習うべきです。

⑥の “showed diarrhea” (下痢を示した) が “had diarrhea” に修正されました。Google USA のフレーズ検索で両表現の使用頻度と使用例を調べてみると、興味深いことが分かりました。

A. (原文) : “showed diarrhea” のヒット数 7,330 件

B. (校閲者による) : “had diarrhea” のヒット数 2,040,000 件

すなわち、“had diarrhea” のヒット数が約 300 倍と、圧倒的に多いことから、英語話者には “showed diarrhea” と表現するセンスはないと思われます。蛇足ですが、“showed diarrhea” でヒットした上位文献を調べると、“showed diarrhea” を使った論文の著者は、日本人研究者ばかりでした。

原文⑦の “stools” は “feces” と同様に、常に複数形で用います。

原文⑦の “after the dosing of” (投薬後) が “after receiving” (投薬を受けた後) に修正されました。修正の理由は、文章⑦の主語がイヌであるのに対し、“dosing” はヒトの行為なので、イヌが主体の文章の途中でヒトが主体の動名詞 “dosing” が混入することになります。校閲者は “dosing” の代わりに、イヌが主体の動名詞 “receiving” を使い、「(イヌが) 投薬を受けた後」に修正しました。この修正によりイヌを主体とする文章の首尾一貫性が維持されました。この文例は、文章の主体の首尾一貫性を重視する英語話者のセンスを学ぶための絶好の実例です。

(馬屋原 宏)

引用文献

1) 馬屋原 宏 : 『誰でも書ける英文報告書・英語論文』、薬事日報社 (2008)